

「みんなが輝く 都市と自然 が織りなす・千葉市」

千葉市消防局長 白井 一広



千葉市は東京湾の湾奥部に面し、千葉県ほぼ中央部、東京都心部から東に約40kmに位置します。成田国際空港や東京湾アクアラインからも近く、鉄道や幹線道路の結節点にもなっており、県内交通の要衝・房総方面の玄関口として栄え、発展してきましたが、その始まりは、平安時代の後期1126年に千葉常重が現在の中央区亥鼻付近に本拠を移し、「千葉」を名乗ったことが、千葉の都市としての始まりだと言われています。昨年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、俳優の岡本信人さん演じる千葉常胤つねたねが登場しました。常胤は常重の子で、源頼朝の信頼を得て、第2代将軍頼家を後見役として支える重要な役割を果たしたそうです。本市では、2026年を「千葉開府900年」として位置づけ、市民の皆さんに千葉のまちの成り立ちとその礎を築いた千葉氏について知っていただけるよう、さまざまな取り組みを展開しています。

また、政令指定都市移行30周年の昨年、千葉市が今後10年間で目指すまちづくりの方向性を示した計画として千葉市基本計画が策定されました。10年後に実現したい姿を「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」とし、この10年間に重点的に推進する政策及び分野目標を位置付けています。消防においては、「安全・安心」分野において「災害など様々なリスクに対応し、安全・安心に暮らせるまちを実現します」を目標に、「消防・救急体制を充実・強化する」を政策として掲げ、それを実現するための3つの施策を打ち出しています。

1つ目は、「消防力の充実・強化」です。大規模・複雑化する災害にも迅速かつ的確に対応できる消防体制を構築するとともに、消防団活動の充実・強化を図ることにより、総合的な消防力を高めていきます。

2つ目は、「救急需要への対応強化」です。デジタル技術を活用した救急需要予測の導入や救急隊員の人材育成などにより、増大する救急需要や高度化する救急業務に機動的かつ効率的に対応できる体制を構築するとともに、応急手当が実践できるバイスタンダーの育成を推進することで、救命率向上を図るものです。

3つ目は、「火災予防の推進」です。独居高齢者の増加や居住形態などにも対応した防火体制の推進や、デジタル技術を活用した効率的な予防業務の運用などにより、火災の未然防止を推進していきます。

今年度は、この千葉市基本計画を実現するために策定された第1次実施計画（令和5年度～令和7年度）の開始年度であることから、目標を達成できるよう、各種事業を計画的に推進していきます。

おわりに、新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから3年が過ぎ、5月8日から感染症法上の分類が2類相当から5類に引き下げられます。救急活動においては、搬送先医療機関の調整などに困難をきたすことが想定されますが、引き続き、市民皆さまのご期待に添えるよう職員一丸となって邁進してまいります。